

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

2019年を迎えるに当たって

支部長懇談会および支部長会議報告



後援会会長 小澤徳（直之／スポーツ健康学部）



後援会副会長 榎原 威（偉／理工学部）

本年も後援会活動に多大なるご理解とご協力を頂き、心より感謝申し上げます。この半年を振り返れば日本各地で自然災害が発生し、多くの方が被災されました。後援会の会員にも被災された方がいらしたと伺いました。学生が学業をあきらめずに済むように、後援会としても被災家庭の学生に対し「後援会奨学金給付規程」に基づいて経済的な支援を行ってまいります。被災された方々には一日も早く平穏を取り戻されまことを祈念しております。

さて、本年度の法政大学体育会各部の活躍には目をみはるものがあります。誌面の関係ですべてはご報告できませんが、野球部は東京六大学秋季リーグで12季ぶり45回目の優勝を果たし、「平成」最後のリーグ戦で法政大学の名前を刻みました。また、陸上競技部は全日本大学駅伝対校選手権におい

て総合7位でゴールし、17年ぶりにシード権を獲得しました。後援会会員の皆さまには全国各地で行われる試合への応援、合宿への激励等、心から感謝申し上げます。

11月9日（金）、10日（土）の2日間にわたり、支部長懇談会および支部長会議が行われました。

2019年1月2日（水）、3日（木）には「東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）」が開催されます。

全国36支部の支部長、副支部長などが集まることも重要な会議です。今回は「後援会の原点」をテーマに、議事を進めさせていただきました。

法政大学は全国から学生が集まる、地域的な多様性のある大学です。

それを進めていくためには、会員と大学が緊密な関係であることが必要です。そして、もうひとつ大切なのが後援会です。支部長（都道府県）の垣根を越えて交流ができるということです。支部長懇談会および支部長会議は、私たちが後援会が地域的な多様性を感じる場でもあります。

ながら時代に合った活動を進めてまいります。会員の皆さまには引き続き後援会活動へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、2019年が皆さまにとって実り多き年となりますよう祈念申し上げます。

後援会が設立当初の思いを受け継ぎながら時代に合った活動を進めてまいります。会員の皆さまには引き続き後援会活動へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、2019年が皆さまにとって実り多き年となりますよう祈念申し上げます。

また、東京という大都会で刺激を受けることも、大学生活での貴重な体験です。

さまざまな地域や習慣の異なる学生が互いに鍛錬することは、人間形成においてとても重要な意味を持ちます。また、東京という大都会で刺激を受けることも、大学生活での貴重な体験です。後援会は「大学・学生を支援する」という不変の目的があります。



写真で振り返る後援会



- 1 5月19日（土）幹事会／市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー 「スカイホール」
- 2 5月26日（土）新役員予定者説明会／市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー 「A会議室」
- 3 6月 2日（土）支部長会議／市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー 「スカイホール」
- 4 6月 2日（土）総会／市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 「薩埵ホール」
- 5 6月23日（土）役員研修会／市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー 「スカイホール」
- 6 6月28日（木）常任参与と運営委員懇談会／九段校舎 「第二会議室」
- 7 8月 5日（日）山口県支部創立20周年記念支部総会・父母懇談会／山口市 「ホテルかめ福」
- 8 10月 7日（日）新潟県支部市ヶ谷キャンパス見学会／市ヶ谷キャンパス
- 9 10月 7日（日）首都圏父母懇談会／市ヶ谷キャンパス
- 10 11月19日（月）東京六大学野球秋季リーグ戦優勝パレード・祝勝会／市ヶ谷キャンパス周辺、「薩埵ホール」

副学長・学部長・学生センター長・後援会懇談会報告



後援会総務 福尾 美貴子 (貴紀/法学部)

11月10日(土)、市ヶ谷キャンパス外 濠校舎5階S505教室において、「副学長・学部長・学生センター長・後援会役員懇談会」が開催されました。

この会は、大学と後援会とが情報を共有し、意見交換をする大変貴重な機会です。毎年開催されています。

大学からは廣瀬克哉副学長、増田正人副学長、熊田泰章副学長、尾川浩一副学長、奥山利幸副学長をはじめに、学部長と学生センター長の皆さまにご

出席いただきました。後援会からも全国からお集まりいただいた36支部の支部長・支部役員を含む多くの役員の方々が参加されました。

冒頭の小澤徳後援会会長のあいさつに続き、増田正人副学長のあいさつでは現在行われている市ヶ谷キャンパスの建て替え工事についての説明があり、新校舎「大内山校舎」の使用が2019年4月から始まること、引き続きこれからのより望ましい教育環境を整えたいとお話がありました。

その後は、限られた時間を有効に活用するために、懇談会のテーマを「今年度の夏に出張いただいた支部総会・父母懇談会の模様や次年度に向けてのご意見」に絞って、副学長や学部長の皆さまからお話いただきました。

先生方には支部父母懇談会において「目玉を生き抜く実践知」長期ビジョンHOSEI2030についてと題した講演を行っていただいたほか、保護者の皆さまからの留学や就職活動、大学での学びなどについての質問にも答えていただき、出席された皆さまか



「参加してよかった」との声を多く聞いています。

保護者とのコミュニケーションの大切さや、親元を離れて東京で学ぶことの意味などのご意見もいただきました。規模の大きな大学でありながら、学生や保護者に丁寧に向き合ってくださる先生方の誠実な姿勢を感じる事ができました。

齋藤勝学生センター長からは「今の学生の傾向、日頃学生にご指導いただ

く中でも特に保護者の皆さまにも知っておいてもらいたいと考えることをお話いただきました。日頃は知ることの少ない、実際に起こった事例や東北でのボランティアの継続に関しては、とても興味深い内容でした。同時に、学生に愛情を持って、真剣にご指導くださることをありがたく感じました。

これからも、課外活動をボランティアセンターの支援を継続したいとのことでした。

懇談会に参加して、大学と後援会の連携の重要性をあらためて実感しました。お忙しい先生方にお集まりいただき、このような懇談会の場を設けていただいたこと、心から感謝申し上げます。



郡山&福島支部合同キャンパス見学&六大学野球応援ツアー



郡山支部長 鈴木 洋平 (優貴/現代福祉学部)

福島県には郡山と福島の二つの支部があり、合わせて270人の会員がいます。10月20日(土)、21日(日)の2日間に合同でツアーを実施しました。日頃離れて暮らす私たちの子どもが、法政大学で毎日見ていることや感じていることを、自分たちでも経験しようという企画です。

具体的には、子どもたちのガイドでキャンパスライフを体験し、東京六大学野球の応援を通じて子どもたちと一体化し、母校への熱気に包まれる体験を共有しました。

私の高校時代の同期生で法政大学を卒業した友人にも参加してもらい、「いま改めて学生時代をどう感じているか」などを話してもらいました。

こうして、保護者だけでなく見学会にとどまらない、複合的な経験と交流をすることができました。

野球応援では、福島県出身の菅野秀哉投手(キャリア)



デザイン学部

4年)と話をするチャンスを得て、最終インテグを締める活躍を応援することができました。



私たちは、後援会の趣旨のもとに集まり、子どものためにできることを考え、子どもへの思いを共有しています。こうした活動のために大学や後援会クラブ、後援会本部の皆さまから多大なるお力をいただいていることには、感謝の念に堪えません。

後援会の集まりに参加するたびに、法政大学の理解が深まり、わが子は本当にいい学校に通うことができていると実感しています。そして、会員が活動にもっと参加し

2019年のシード権獲得! 東京六大学野球優勝に続く結果を残した全日本大学駅伝



東海支部長 大嶋 浩敬 (凜太郎/国際文化学部)

第50回を迎えた記念すべき全日本大学駅伝対校選手権大会(全日本大学駅伝)。前日に引き続き、東海支部として応援に参加してきました。天候は曇り時々雨でしたが、スタートの熱田神宮西門には応援団とチアリーダー、さらに東京からの後援会関係者をはじめ、校友会の皆さまにも参加いただきました。

第1区走者の青木涼真選手への力強い声援とともに、応援を開始、続く7カ所の中継所に12人、ゴールの伊勢神宮内宮に17人がスタンバイして、総勢42人の体制で応援を繰り広げました。

途中、飛び入りの後援会会員も加わり、実際は50人を超えていたと思いが変わつたので、そこでの駆け引きも見どころでした。

前回と同様に、「オレンジ色」のものを身につけて参加しようという呼びかけもあり、法政オレンジが目立った沿道風景になりました。今

回はスタートだけでなく、ゴール地点でも応援団やチアリーダーの皆さんと一緒にランナーへと声援を送れたことはよかったですと感じています。

この前日に、愛知県校友会総会にて、駅伝チームの坪田智夫監督から「今回は本気で伊勢を走ります」という心強い言葉があり、その言葉通り17年ぶりにシード権を獲得する7位でフィニッシュ。応援したかいがありました!

選手の前は、応援する私たちの前であつたという間に通り過ぎていきますが、考えてみるとそれがいい結果につながっているんですね。2019年の箱根路、伊勢路も同じようにオレンジの風となつて、私たちの目の前をさっそうと通り過ぎていくてほしい!

最後になりましたが、後援会本部、校友会、沿道の名前も存じあげない法政ファンの方々に御礼申し上げます。感想に代えさせていただきます。2019年もよろしくお願ひいたします。

「オレンジ色」のものを身につけて参加しようという呼びかけもあり、法政オレンジが目立った沿道風景になりました。今